

2006年2月
東京国立博物館
読売新聞東京本社

天台宗開宗1200年記念 特別展
最澄と天台の国宝

紹介のお願い

謹啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、2006年3月28日（火）から5月7日（日）の期間、東京国立博物館におきまして、特別展「最澄と天台の国宝」を開催する運びとなりました。

天台宗は、平安京遷都から間もない806年（延暦25年）、桓武天皇の勅許を得て開宗しました。宗祖・最澄（伝教大師）は、身分の差なく仏教はすべての人々を救うと説き、その教えは法然（浄土宗）、栄西（臨済宗）、親鸞（浄土真宗）など後世の諸宗派の開祖へも受け継がれ、1200年を経た現在も多くの人々の心を癒しています。

近年、寺社関連の展覧会は数多く開催されていますが、本展覧会は名宝を紹介するだけでなく、法華経、浄土信仰から密教にいたる天台ならではの奥深い教義と、その幅広い信仰が育んだ文化を伝えようというものです。

総本山である比叡山・延暦寺をはじめ全国の天台宗関係寺院の全面的なご協力を得て、国宝31件、重要文化財100件を含む計166件を展示予定です。その中には、上野・寛永寺の秘仏・薬師如来像など、寺外初公開となる本尊仏も含まれており、量・質ともにまさに空前の大展覧会と言えるでしょう。

つきましては、本展覧会趣旨をご理解いただき、貴メディアにて広くご紹介いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

《展覧会概要》

【展覧会名称】 天台宗開宗 1200 年記念 特別展
「最澄と天台の国宝」

【会期】 2006 年 3 月 28 日（火）～5 月 7 日（日）

開館時間／午前 9 時 30 分～午後 5 時（土・日・祝は午後 6 時まで）
夜間開館／毎週金曜日 午後 8 時まで（入館は閉館の 30 分前まで）
休館日／毎週月曜日（但し 5 月 1 日は開館）

【会場】 東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9

■JR 上野駅公園口、鶯谷駅から徒歩 10 分

■京成電鉄京成上野駅、東京メトロ上野駅・根津駅から徒歩 15 分

【入場料】 = 予定

当日 一般 1 3 0 0 円 高大生 9 0 0 円 小中生 4 0 0 円

前売 一般 1 1 0 0 円 高大生 7 0 0 円 小中生 3 0 0 円

団体（20人以上） 一般 1 0 0 0 円 高大生 6 0 0 円 小中生 2 0 0 円

※前売券販売期間は 2 月 2 日～3 月 27 日です。

【主催】 東京国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、天台宗京都教区、
読売新聞東京本社

【後援】 文化庁

【協賛】 大成建設、サントリー、ダイワボウ情報システム、図書印刷、
ニッセイ同和損害保険、日本香堂

【協力】 JR 東日本、天台宗東京教区

本プレスリリースに関するお問い合わせ

〒151-0063 渋谷区富ヶ谷 1-5 1-4 平家ビル 4F

アート・ベンチャー・オフィス ショウ内「最澄と天台の国宝」広報事務局

TEL03-3485-7910/FAX03-3485-7851

e-mail avo-shou.pr@ktd.biglobe.ne.jp

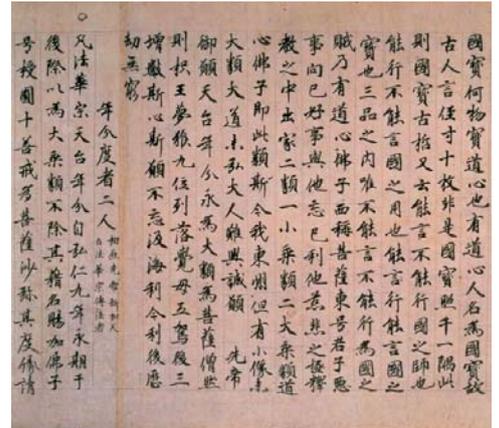
■国宝 天台法華宗年分縁起

てんだいほつけしゅうねんぶんえんぎ

伝教大師筆 平安時代・9世紀 滋賀・延暦寺蔵

天台開創の歴史を語る最澄直筆の文書

延暦25年(806)から弘仁9年(818)にかけての文書六通を、最澄が自ら書写したもの。天台法華宗に正式な僧侶である年分度者(ねんぶんどしや)二人を認めってもらうよう上表した文書、それを許可した太政官符、年分度者の歴名、比叡山に戒壇設立を申請した文書、加えて天台法華宗の学生が守るべき項目を六か条にまとめたものが収められており、日本天台宗開創までの経過を知ることができる。最澄の筆跡を知るとともに天台宗の歴史を物語る極めて重要な遺品である。



貸出写真①

■国宝 最澄像 さいちょうぞう

聖徳太子及び天台高僧像 十幅のうち

平安時代・11世紀 兵庫・一乗寺蔵

現存最古の伝教大師像

鳥や獣や草木にいたるまで、すべての存在は、真実を悟って仏になることができる。この慈愛に満ちた最澄の教えは、天台宗にとどまらず、多彩に展開していく日本仏教の豊かな源泉となり、比叡山を拠点として連綿と受けつがれていった。この作品は、その最澄の現存する最古の肖像。頭巾をかぶり、静かに瞳を閉じて瞑想している。着衣などは、主に暖色系の彩色をほどこした上に、彩色による大らかな文様を描いている。温和な彩りの取り合わせが生む協奏曲のような調べは、日本列島における絵画の一特色といえる。そうした色彩重視の傾向を早くもしめす、11世紀の希少な遺品である。



■重要文化財 聖観音菩薩立像 しょうかんのんぼさつりゅうぞう

平安時代・12世紀 滋賀・延暦寺

平安中期彫刻の名品

比叡山の奥深くに位置する聖地「横川」(よかわ)の中心となるお堂の本尊。信長の焼き討ちや落雷による火災で中堂は消失したが(現在の横川中堂は1971年に再建)、本尊は奇跡的に救い出された。蓮華を片手に少し腰をくねった姿は美しく、表情は慈愛に満ちている。平安後期の彫刻の名品のひとつとして知られる。



貸出写真②



貸出写真③



■重要文化財 薬師如来及両脇侍立像 やくしによらい および りょうきょうじりゅうぞう

平安時代・10世紀（中尊）、12世紀（脇侍） 東京・寛永寺蔵

上野・寛永寺の秘仏本尊、寺外初公開

延暦寺の根本中堂を模して元禄11年（1698）に建立された、寛永寺根本中堂の秘仏本尊像。中尊は滋賀の石津寺から迎えられた。肩が角張って輪郭線が直線的な体部と、それに対応するように四角い頭部はたいへん個性的である。すこし鄙びた表現にみえるが、それがかえって最澄自刻という伝承の真実味を増す。台座の蓮肉を含め一材から彫出する構造、鎬のある襷と丸みのある襷を交える翻波式衣文と呼ばれる表現は、平安時代前期の特徴。しかし、圧倒的な重量感が見られず、肉身や衣文に均整が見られることから、10世紀になってから造られたと考えられている。脇侍の日光・月光菩薩像は、慈覚大師創建という山形の立石寺から、中尊と同時期に移されたもの。



貸出写真④

■重要文化財 薬師如来坐像 やくしによらいざぞう

平安時代・正暦4年（993） 滋賀・善水寺蔵

滋賀・善水寺の秘仏本尊、寺外初公開

桓武天皇の病がお寺の湧き水により平癒したことにその名が由来する滋賀・善水寺。そのご本尊「薬師如来坐像」は秘仏で、普段は厨子の中に安置されている。

寺外での公開は初めて。



貸出写真⑤

■国宝 金銅宝相華唐草文経箱 こんどうほうそうげからくさもんきょうばこ

平安時代・長元4年（1031） 滋賀・延暦寺蔵

上東門院彰子ゆかりの経箱。平安時代金工の最高傑作

長元4年（1031）、叡山の僧覚超は円仁がかつて書写した如法経を銅筒に納めなおし、横川の如法堂に埋納した。その際、藤原道長の娘、上東門院彰子もこれに結縁して自ら書写した法華経を埋納している。この経箱はその彰子書写の法華経を容れていたもの。銅製鍛造で、隅丸長方形をした箱である。全面に宝相華唐草文が蹴彫りされ、全体に金メッキ、間地や床脚の格狭間には銀メッキを施した美しい金銀の色彩対比が見事である。印籠蓋造りの蓋と身を簡単には開けられないように指金で留める仕様は、経巻が長く保護されることを願った、一条天皇中宮の上東門院の信仰の深さを表しているかのようだ。平安時代の金工品を代表する優品の一つ。



貸出写真⑥

■天台の密教

天台宗の中心は、言うまでもなく、永遠なる釈迦を称えた『法華経』である。その天台宗が、法華経美術だけにとどまらず、きわめて多彩な密教美術の世界を生み出したのは何故だろうか。それは、天台宗が開かれた平安時代の仏教が、国家や天皇の安泰、病の治癒、安産、政敵への呪詛など、さまざまな現世利益をかなえてくれる優れた手段として、期待されていたからである。こうした期待に、最初に力強く答えたのは真言宗だった。真言密教は、すでに空海の時点で、整備された密教の儀式や美術を、中国からもたらしていた。これに対して、最澄が唐から持ち帰った品々は、当然ながら法華経に関するものが中心だった。従って天台宗では、人々の祈願に答えて、宗派の土台を築くために、強力に密教化を進める必要があったのだ。この使命を見事に果たしたのが、最澄に連なる円仁、円珍らの弟子たちで、彼らは唐に渡って経典・仏具類の取得につとめ、最澄の欠を補って余りある密教関連の経典や美術を比叡山にもたらした。それらの中には、真言密教よりも古い時代の密教も含まれるなど、まことに多様なものだった。そうした天台の密教(略して台密と呼ぶ)の美術に見られる特徴のひとつに、柔軟性という点があげられるだろう。通常、密教の仏像や仏画は、経典などに記された約束事に厳密に則って制作される。しかし、たとえば不動明王画像の中でも有名な「黄不動」は、円珍の修行中に出現した、経典には登場しないオリジナルな像である。また、天台宗寺院によく見られる聖観音・毘沙門天・不動明王の三尊形式は、円仁の信仰から成立した独自のものである。すなわち、伝統的な規則に基づく正統な密教の造形と、高僧の信仰体験等から生まれた独創的な造形とが、見事に融和している点に台密の美術の特色があると言えよう。そしてこうした密教美術は、法華経美術や浄土教美術等とならんで、天台美術の大きな柱となっている。(東京国立博物館 列品課 行徳真一郎)



天台大師坐像
平安時代・12世紀
愛知・瀧山寺蔵

貸出写真⑦



国宝 不動明王像(黄不動)
平安時代・12世紀
京都・曼殊院蔵

貸出写真⑧

■装飾経の魅力

表紙や見返し、本紙や写経の文字、さらに軸・紐・題箋などに装飾をほどこした写経を装飾経とよぶ。奈良時代の遺品も確認されており、早い時期から作られていた。

平安時代に入ると、いっそう華麗な装飾経が見られるようになるが、これは、最澄が開創した延暦寺の日本天台宗が、『法華経』を根本經典とし、宮廷貴族に『法華経』信仰が広まったことに起因している。『法華経』はそれを持って、読むだけで功德がある、と考えられていた。仏の加護を得たいという人々は、『法華経』に説かれる写経成仏（「法師品」）や女人成仏（「提婆品」）の利益を信じ、こぞって經典の読誦や写経に励み、それが次第に写経供養へと繋がっていったのだ。さらに末法思想や浄土思想が流行するようになり、人々は末法の危機感と恐怖から、現世の極楽を願い、後世の成仏を頼んで、宇治の平等院鳳凰堂などの阿弥陀堂が次々に建立されていった。

本展覧会に出品される「法華経 開結共」（浅草寺蔵）、「一字蓮台法華経」（龍興寺蔵）、「紺紙銀字法華経」「紺紙金銀交書法華経」（以上延暦寺蔵）などに見られる紫や紺の料紙、金字や銀字はいずれも經典を荘嚴する意図によるもので、極楽浄土が瑠璃地で覆われており、七宝で荘嚴されていたと説かれることに基づいている。宮廷貴族によるひたむきな気持ちを反映して、美の限りを尽くした装飾経が誕生していったのである。

装飾経は、当時の人びとの信仰と美の融合のひとつの到達であり、華麗に装飾された工芸、見返しや下絵に見られる絵画、美しく書写された筆跡など当時の人びとの美意識を結集したものだ。極楽浄土への篤い思いと宮廷貴族の美意識の融合の果てに出来あがった装飾経を、じっくりご鑑賞いただきたい。（東京国立博物館 展示課長 島谷弘幸）



重要文化財
紺紙金銀交書法華経
(巻第一 見返し)
平安時代・11世紀
滋賀・延暦寺蔵

貸出写真⑨



右：国宝 法華経 開結共
(巻第一) 東京・浅草寺蔵
平安時代・11世紀

貸出写真⑩

左：国宝 一字蓮台法華経
(巻第三) 平安時代・11世紀
福島・龍興寺蔵

貸出写真⑪

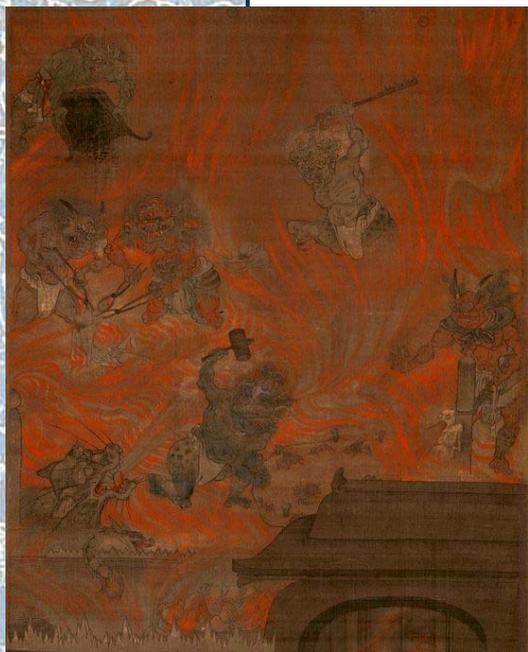
■浄土信仰と六道絵

阿弥陀如来のいる西方浄土(さいほうじょうど)への往生の願いを、念仏によって実現しようとするのが浄土教である。天台浄土教は、円仁が中国五台山からもたらした法照流の五会念仏(ごえねんぶつ)が「山の念仏」として親しまれ、その道場としての常行堂(じょうぎょうどう 阿弥陀堂)が各地に建てられて普及した。やがて源信が『往生要集』を著して詳しい理論と実践方法を集大成し、空也や千観が山を下りて人々に念仏を勧め、また末法(まっぽう)到来(1057年)がこれに拍車をかけた。

こうした浄土信仰を背景に、阿弥陀如来が聖衆(しょうじゅ)とともに臨終者を迎えに極楽からやってくる様子を視覚化した来迎図が数多く制作された。一方、極楽往生できなかったものが墮ちる、地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人・天の六道の苦しみを描く六道絵は、念仏修行を勧める反面教師として用いられた。

なかでも注目すべきは、滋賀・聖衆来迎寺の国宝「六道絵」であろう。かつて比叡山に伝来したもので、『往生要集』をおもなテキストとして描かれた鎌倉時代の大作である。全15幅のうち4幅にもわたる地獄道は、その悲惨な情景を具体的かつ克明に描写して見るものの眼を奪う。全体を見わたすと、水墨画をこなしした宋元画の影響の顕著な幅と、伝統的なやまと絵風の幅とが混在するが、寒色系を主調とする、一種暗さを帯びた色調が全幅の統一感を保っている。どの幅も的確な描写で、画面を破綻なく構成しており、当時第一級の画家の手になるものと思われる。高位の貴族の依頼によるものであるに違いない。今回の展覧会では、前期3週間に全15幅を一度に展示する。全幅を一望する千歳一遇の機会なのでぜひご覧いただきたいと思う。(東京国立博物館 上席研究員 松原茂)

国宝 六道絵 全15幅のうち 地獄絵
鎌倉時代・13世紀
滋賀・聖衆来迎寺蔵



六道絵 阿鼻地獄(部分)

貸出写真⑩



六道絵 黒縄地獄



六道絵 等活地獄



六道絵 衆合地獄

■記念講演会

4月8日(土) 13:30～15:00 平成館大講堂

「特別講話 回峰行と天台のこころ」 講師：比叡山飯室谷不動堂大阿闍梨 酒井雄哉師

7年をかけ約4万キロを歩き、さらに9日間不眠・断食でお経を唱え続ける、比叡山の荒行中の荒行「千日回峰行」。延暦寺の長い歴史の中で、この苦行を2度も経験したのは3人のみと記録されている。その中の1人、酒井 雄哉(さかい・ゆうさい)・大阿闍梨が、回峰行の体験談を中心に、天台宗について語る。

事前申込(定員380名)

聴講無料(ただし、特別展「最澄と天台の国宝」の観覧券が必要)

申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申込みください。

*1枚のはがきで、1人のみ申込可能

*応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送付

申込締切：3月22日(水) 消印有効

申 込 先：〒151-0063 渋谷区富ヶ谷1-51-4 平家ビル4F

アート・ベンチャー・オフィス ショウ内「天台展」講演会係

講演会に関する問い合わせ：TEL03-3485-7910/FAX03-3485-7851(アート・ベンチャー・オフィス ショウ)

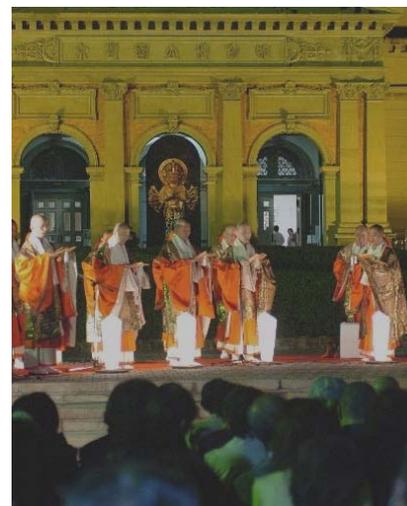
■関連イベント

4月7日(金) 18:30～19:30 本館前(雨天時は屋内)

「天台声明公演」 出演：天台宗東京教区

「声明」(しょうみょう)とは、仏教の儀式において、経文などに節をつけて唱える読経の一方法であり、一種の宗教音楽である。インドに発祥した仏教音楽を起源とし、5～6世紀の仏教伝来とともに日本に伝えられ、独自に発展を遂げた。本展では、期間中に、天台寺院などで唱えられている「天台声明」の公演を行う。

聴講無料(ただし、当日の入館料は必要)



「最澄と天台の国宝」に関するお問い合わせ

◇写真貸出・チケットプレゼント に関しては

アート・ベンチャー・オフィス ショウ

Tel 03-3485-7910 fax03-3485-7851 e-mail avo-shou.pr@ktd.biglobe.ne.jp

◇展示内容および取材に関しては

東京国立博物館広報室

Tel 03-3822-1302 fax03-3822-0086 e-mail m-kobayashi@tnm.jp

読売新聞社文化事業部

Tel 03-5159-5874 fax03-5259-5875 e-mail iwms9208@yomiuri.com

<写真等掲載のお申し込みについて>

■ 画像データのご提供

- ・本展の作品の写真を別紙申込書の通りご用意しています。ご希望の際は、申込書に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。
- ・写真掲載に際しては、下記「写真使用について」の規定を順守ください。

■ 読者・視聴者プレゼント用招待券のご提供

- ・読者・視聴者プレゼント用に、招待券を10組20名様分ご用意します。別紙の申込書にてお申し込みください。

■ 掲載物のご送付のお願い

- ・掲載記事について、情報確認のためゲラ刷りの段階で下記へFAXをお願いします。
- ・ご掲載いただいた際には、大変お手数ですが、掲載紙（誌）を**2部**、下記宛にご送付下さいますようお願いいたします。

■ ご送付・お問い合わせ先

〒151-0063 渋谷区富ヶ谷 1-51-4 平家ビル 4F

アート・ベンチャー・オフィス ショウ内「最澄と天台の国宝」広報事務局

お問い合わせ：03-3485-7910(アート・ベンチャー・オフィス ショウ)

作品の写真使用について

広報用貸出写真は、別紙「写真資料等申込書」記載の12点です。作品はすべてプレスリリースに掲載されています。この12作品については、画像データをご用意しています。同申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までお申し込み下さい。広報用作品以外の写真の使用については、別途お問い合わせください。

写真をご使用いただく場合、必ず以下の注意をお守り下さいますようお願い申し上げます。

【使用についての諸注意】

- ① 単色使用の場合、黒を使用して下さい。
- ② 必ず全図で使用して下さい。改変、部分使用、文字載せなどはできません。
- ③ 必ず「会期中に作品の展示替えがあります。ご了承ください。」の一文を明記して下さい。
- ④ 作品名、所蔵先、写真クレジット（聖観音菩薩立像のみ）を明記して下さい。
- ⑤ 写真の使用は、本展の告知を目的とする内容に限ります。なお、本展終了後の掲載・放送等は原則お断りいたします。
- ⑥ 掲載内容については、情報確認のため、ゲラ刷りの段階で広報事務局へFAX願います。ホームページでご紹介いただく場合は、URLをご連絡下さい。
- ⑦ ご掲載いただいた場合、お手数ですが、掲載紙（誌）などを2部、広報事務局までご送付下さい。

上記の点にご注意いただけない場合に発生したトラブルについて、主催者側では一切責任を負いかねますので、ご了承下さい。

FAX: 03 - 3485 - 7851

写真資料等申込書

▼使用写真		図版の番号（プレスリリースの図版番号に対応します）に○をお付け下さい	
①	国 宝	天台法華宗年分縁起	滋賀・延暦寺
②	重要文化財	聖観音菩薩立像	滋賀・延暦寺 <撮影：金井杜道(MORIO, Kanai)>
③	重要文化財	聖観音菩薩立像	滋賀・延暦寺 <撮影：金井杜道(MORIO, Kanai)>
④	重要文化財	薬師如来及両脇侍立像	東京・寛永寺
⑤	重要文化財	薬師如来坐像	滋賀・善水寺
⑥	国 宝	金銅宝相華唐草文経箱	滋賀・延暦寺
⑦		天台大師坐像	愛知・瀧山寺
⑧	国 宝	不動明王像	京都・曼殊院
⑨	重要文化財	紺紙金銀交書法華経	滋賀・延暦寺
⑩	国 宝	法華経 開結共(巻第一)	東京・浅草寺蔵
⑪	国 宝	一字蓮台法華経	福島・龍興寺
⑫	国 宝	六道絵「阿鼻地獄」	滋賀・聖衆来迎寺

封筒の宛名ラベルに掲載されている NO.

No.

*NO. をご記入いただければ、下記事項は*の部分だけでかまいません。
(但し、変更のある場合はご記入下さい。)

▼貴紙・誌名／番組名*		▼発売／放映予定日*	
▼掲載号*		▼ご担当者名*	
▼貴社名／部署名		▼TEL*／FAX /	
▼e-mail @			
▼ご住所 〒			
▼読者・視聴者プレゼント用招待券（10組20名）		希望する	希望しない
▼提供物の必要期限		月	日まで